

Web 版リハビリテーション医学用語事典の運用開始についてのお知らせ

日本リハビリテーション医学会 評価・用語委員会

日本リハビリテーション（以下、リハ）医学会が定める用語は、1969年（昭和44年）以来、現在の評価・用語委員会の前身に当たる学術用語委員会で検討され、1972年（昭和47年）リハ医学第9巻1号に用語集（案）として発表され、1974年（昭和49年）リハ医学第11巻1号にリハ医学用語集として英和対訳599語としてまとめられました。その後、1992年（平成4年）に独立した小冊子版リハ用語集として大きな改定がなされ、5年ごとの改定が定められました。1997年（平成9年）の改訂後、2002年（平成14年）には邦語1,340語、欧語1,310語（略語93語）と収載語数も増大しました。そして、2007年（平成19年）に邦語6,953語、欧語6,907語（略語124語）と収載語数を大幅に増したリハ医学用語集（第7版）が発行され現在にいたっています。

第7版の発行を終え、次の改訂に向けての検討の中で、用語数が増え評価・用語委員会委員による語の選別作業に限界が生じたこと、収載されている用語に対する評価・用語委員会への質問が高度になってきたことなどから、より専門性の高い立場での用語選定や編集にかかわる必要性が認識されました。また、インターネットの普及により、一般参加型の集合知の実用性が認められるようになったこと、学会として一般市民へ用語及び解説を提供することがリハの普及に重要であることも認識しました。

そこで、既存の問題解決と用語編纂への学会員の直接参加を促し、より良いサービスを会員、市民に提供するために、リハ医学用語を専門医を中心とした学会員が編集、用語解説に直接参加するリハ用語事典としてWeb上に展開することにいたしました。5年ごとの改訂が定められているので、まず第7版の用語をWeb版リハビリテーション医学用語事典（略称Web版リハ用語事典）として整備するための準備作業を行っていましたが、このたび、リハ医学会の会員システム上に会員が書き込み可能なシステムを準備しました。

まず、一部のリハ科専門医の先生方に数語ずつ用語解説の執筆を依頼して、会員の皆様が閲覧可能なリハビリテーション医学用語集としてWeb版リハ用語事典を立ち上げます。掲載語数が落ち着いた時点で、書き込みや修正をお願いする範囲を全部の専門医と認定臨床医にまでひろげ、執筆いただいた場合は自己研修として認定単位の付与を行います。

書き込みの手続は、有資格者がリハ医学会Webシステムにログインした状態でWeb版リハ用語事典を閲覧すると書き込みができる状態になります。ある語について書き込みがなされるとその語は追記不可になり、評価・用語委員会の複数の担当者が内容を確認した上で公開手続を行い、あらためて追記も可能になるようにいたします。用語によっては議論が白熱することも予想されますが、その際には委員会の判断で書き込みができない状態にして議論の整理、対応をいたします。

Web版リハ用語事典の運用についての取決め、執筆要項についてはシステム上から参照できますので、ご覧いただき、執筆依頼が届きました際にはご協力のほど、どうぞ宜しくお願いいたします。

Web版リハ用語事典の入り口は「リハ医学会会員ページ」に進んでいただき、左メニューの「会員参加型コンテンツ」をクリックし、次のページの「Web版リハ用語事典」をクリックしていただくと用語事典のトップになります。

Web版リハ用語事典にたくさんの記載が集まり、活発に利用されることを評価・用語委員会として強く希望しています。